

春岡村の伝説

春岡村の4月

4月8日はお釈迦様の誕生日です。この日、アーバンの入り口にある曹洞宗宝積寺ではお釈迦様の誕生をお祝いする「花まつり」が行われます。お釈迦様はネパールのルンビニというところの花園で生まれたので「花まつり」と呼ばれるとも言われています。

今からおよそ2500年前の紀元前6世紀ないし5世紀の4月8日の朝、お釈迦さまの母親である摩耶（マーヤ）夫人は出産のための里帰りの道中、立ち寄ったルンビニ園の無憂樹（むゆうじゅ）の木の下でお釈迦さまを出産しました。



無憂樹の花をとろうとして右手をあげたところ、わきの下からお釈迦様が生まれたのです。お釈迦様は生まれるとすぐ7歩あるいて右手で天を、左手で地をさし「天上天下唯我独尊」（てんじょうてんげゆいがどくそん）と唱えたといわれています。

このとき、釈迦の誕生を祝った竜王が甘露の雨を降らせたという伝説から、美しく花で飾り付けた「花御堂」の中に天地を指さす誕生釈迦像を安置し、その像に甘茶をかけてお祝いします。

今から25年位前、息子を連れて参加したことがあります。当時は人形劇を見てそのあと誕生釈迦像に甘茶をかけ、子供のお楽しみ会のようなでした。



〈おまけ〉

3月10日に行われた丸ヶ崎の悪疫払いの春祈禱「お獅子様」を見学してきました。写っているのは丸ヶ崎新田の薬師堂に届いた獅子頭と天狗のお面です。このあと丸ヶ崎の氷川神社の境内にある八雲神社に返すのですが、軽トラの荷台にポンと無造作に積み重ねられて運ばれていきました。八雲神社の木箱のふたの裏には「天保七年」としてされていました。

ところで、この氷川神社に真新しい鳥居が据えられていました。地元の大工さんが、一年かけて境内で丸太を削り出す作業をし、朱で塗られたとても美しい鳥居です。

（平山由喜）